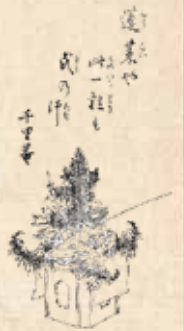


新たな江戸時代の魅力を発見する一大叢書

「江戸庶民」の生活を知る

江戸時代庶民文庫



全40巻(第61～100巻+別巻)
〈第2期〉
絶賛配本中

発行

学術資料出版
大空社出版

江戸時代の魅力

さらに広がる

2019年10月刊

〈第2期〉

第4回配本

第76～80巻

建築
紀行
暦象
気象
地方・経済

解題 小泉吉永
〈往来物研究家〉

*各巻
分売可

ご希望の巻
いま知りたい巻を
選んで
お求めになれます。

貴重な
版本(影印)

から

江戸時代日本

津々浦々の

街が

風景が

老若男女

庶民の

所作が言葉が

日々の生活が

透けて見える。

〈第1期〉 全60巻(第1～60巻)
+別巻(解題・索引)

好評発売中

第76巻【建築】

(収録3点)

〔鑑形〕匠家秘伝(ひながたん) 広丹農父作。享保12年(1727)5月初刊。宝暦14年(1764)4月再刊。「江戸」須原屋茂兵衛板。

▽江戸中期の木割書の一つで、日本建築における規矩準繩を示したものの。木割りとは、建築の部材寸法を実寸法でなく他の部材との比例(割合)で示す方法で、初めは部材の木取りを目的とした技術であったが、後には組上げまで規定するように発展した。上巻には、和漢の尺、寸尺の異名、占卜・家相等の基本から、造営物における各部材の寸法や図解などを掲げる。下巻には「角行のび定法(ひらのつるのび定法・角のび定法)」たる木をくばる法」の解説等で、繁襖・垂繁襖(半しげ)・吹寄襖等の垂木割や、「がんぎがね法」「扇野法」など軒廻りの図解、また、角木(隅木)の比率や垂木割の簡易な計算方法を示す。

〔大工鑑形〕秘伝書図解(ひだくしんがた) 文照軒一志作・序。西村権右衛門画。享保12年(1727)7月自序。享保12年12月刊。「京都」永田調兵衛板。▽江戸中期を代表する規矩術書。規矩術は、指し矩を用いて垂木や隅木などの建築部材の実形を幾何学的に割り出し、材木に墨付けをする技術で、その淵源は古代まで遡るが、現代の規矩術に連なるのは、和算の発達に伴い高度に理論化された江戸時代の規矩術。本書は、隅矩術(軒規矩術)に関する本邦最初の出版物とされる。2巻から成り、乾巻は軒規矩術全般について図解し、20項を収録。坤巻は、堂塔・拝殿等の木割や車寄小柱や擬宝珠の割付などを図解した木割書で、13項を収録。参考のため、江戸後期後印本(「江戸」須原屋茂兵衛板)も抄録。

〔俗説正誤〕匠家必用記(ぞくせつせいご) 立石定準作・序。宝暦5年(1755)自序。宝暦6年1月、原益(友諒・鶴臯)序。宝暦6年4月刊。「江戸」須原屋茂兵衛板。▽番匠の祖神に関する諸説を検討し、番匠祖神が手置帆負命と彦狭知命の二神であると結論づけ、その神徳や祀り方を説き明かし、また、宮造りから鳥居に至るまでの故実や、屋造りの吉凶等を述べた書。上巻は「神国神道、并二両部習合の大意」など11項、中巻は「陰陽の二神八尋の宮殿を化立給ふ事」など10項、下巻は「地鎮の神事」など17項を収録。各巻に挿絵数葉を載せ、下巻には社殿等の鑑形を多く掲げる。

第77巻【紀行】

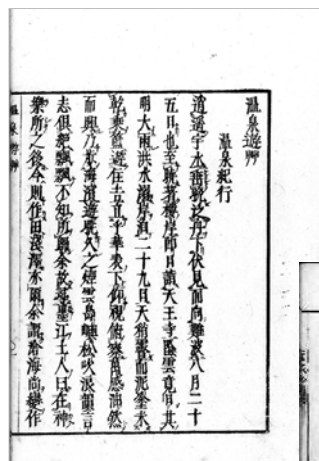
(収録4点)

温泉遊草(おんせん) 深草元政(日政・霞谷妙牛子・草山妙子(妙子)・石井元政)作。片山松庵(朴元)編・序。寛文8年(1668)12月、松庵朴元序・初刊。明治初年後印。刊行者不明。▽作者が二度にわたる有馬温泉での湯治旅行の模様を記した漢文の紀行文と旅中の折々に詠じた詩歌を収めたもの。作者の死後に、その遺稿を見出した編者が同年暮れに出版したもの。内容は、①寛文5年9月の「温泉遊草」および②寛文7年2月の「温泉再遊」と、両作品の間に挿入した③片山作「悼霞谷山人詩并序」の3編から成る。①は京都出発後の道中の様子や出来事などを記した「温泉紀行」を始め、長短含む20数編で、最後の「温泉紀略」では温泉の祭神である大己貴命・少彦名命以来の温泉関連の故事を種々記す。②は、まず、湯治の効果を実感した作者が再び有馬を訪れるまでの経緯や、京都を旅立つ際に弟子の慧明に与えた留別の漢詩を掲げた後、「旅宿有感」等の漢詩文のほか、「偶作」と題した漢詩文や詞書を添えた和歌六首を載せる。③では、深草の略歴と恩師追悼の七言絶句7編を掲げる。

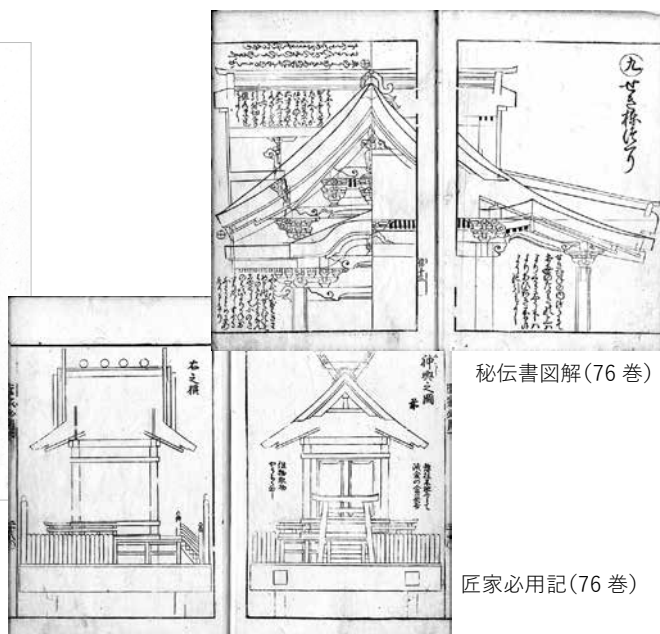
相馬日記(そうま) 小山田与清(文儒・高田与清・平与清)作。北条時郷注。大寂庵立綱序。鉄形蕙斎(紹真)画。文化15年(1818)4月、大石千引跋。文政元年(1818)5月、藤原常彦跋。文政元年8月、玄雅序。文政元年、喜多村節信跋。文政元年10月初刊。明治初年後印。「大阪」群鳳堂ほか板。

▽文化14年8月17日に江戸神田川沿いの自宅を出発して下総国相馬郡の平将門城跡等を巡って、8月27日に江戸に戻るまでの11日間の旅行記。一巻は、江戸神田川辺く下総国豊田郡水海道村。二巻は、水海道村く下野国都賀郡日光領。三巻は、下総国相馬郡筒戸村く下総国下埴生郡成田山新勝寺。四巻は、印旛郡伊篠村く江戸。各地の古跡に因む故事や地名の由来、名所和歌等を紹介する。また、頭書に記紀万葉をはじめ、多数の古典文献によって詳細に施注する。各巻に風景図を掲げ、「三宝寺・豊島氏城跡周辺」「下総国水海道」「羽生村・法蔵寺・累ヶ淵」「相馬偽都旧跡」「成田山不動尊」、「真間国府台」の計6葉。

鹿島日記(かしま) 小山田与清(文儒・高田与清・平与清)作。滝山知之校・序。真斎英笑画。文政5年(1823)7月、長谷川宣昭・滝山知之序。文政5年7月、沢近嶺跋・刊。刊行者不明。▽文政3年9月7日に江戸を出発して、千佳、松戸、小金、柏、我孫子、

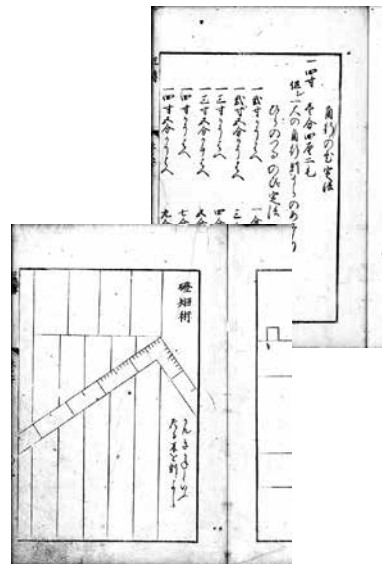


温泉遊草(77巻)



秘伝書図解(76巻)

匠家必用記(76巻)



匠家秘伝(76巻)

収録内容紹介

江戸庶民の日常生活、身のまわりの道具、
知恵、技術、工夫、“科学的知識”、
年中行事、都市と地方…江戸時代をさらに深く！

第78巻【暦】

(収録5点)

取手、神崎、佐原、香取神社、潮来、鹿島神社、延方、息栖神社、銚子、八日市場、成田、酒々井、佐倉、船橋、行徳を経て11月6日に帰宅するまでの旅行記。道すがら各地の知人や門人を訪れ、種々の講説を行い、あるいは和歌を贈答し合っている。また、適宜、地名を考証し、名所旧跡の故事来歴や金石文を紹介し、種々の文献を引用する豊富な地誌的記述とともに、各地の風趣や旅情も伝える。序文で長谷川は、見聞したり体験したりした事柄をそのまま記す旅日記は、後の時代の人が読んでも当時の様子が分かり疑似体験できるが、多くは旅行後に記したもので錯誤が多く、本書のように旅行中に記したものは稀であると述べる。なお、上巻巻頭に口絵2葉(鹿島全景と鹿島神宮の神使である鹿の図)を掲げ、下巻末尾に、春・夏・秋・冬・恋・雑の六部に分けて門人の和歌を列挙する。

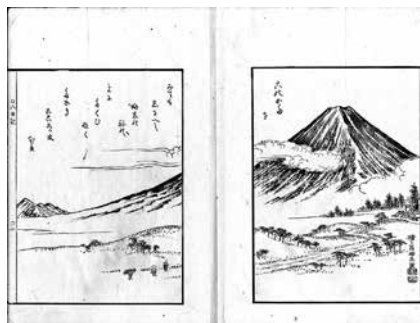
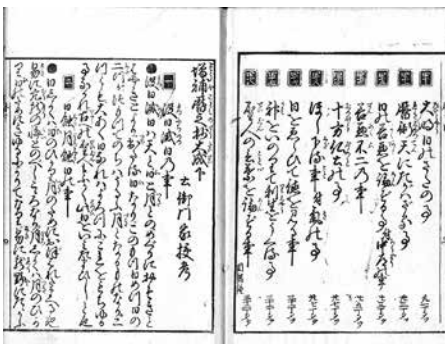
やをかの日記 (岩雲花香(岩雲大人) 作・序。精々翁培山画。片野善長(永楽屋東四郎) 跋。天保2年(1831) 6月、阿波の国人序・刊。「名古屋」永楽屋東四郎板力。▽伊豆国田方郡多田村(現・伊豆の国市荏山)に住む友人の訪問を機に思い立った富士登山の8日間(天保2年6月15～22日)の旅行記兼歌集。その後合流した二人とともに伊豆・多田村を出発。出発直前の感興を詠んだ「望の夜に降りける雪をよく見むと、富士の高嶺に明日は登らむ」の一首を冒頭に掲げる。早朝に荒木神社を参拝し、長崎村、三嶋神社、深良村を経て富士の裾野で1泊。翌朝に富士浅間の宮を参拝し、箱根の北海を眺めながら旅を続け、岩室で宿泊し、いよいよ登頂に挑むが、その感慨を12首の和歌で表現する。下山後も再び富士浅間神社にお礼参りをし、裾野・三島に宿泊した後、22日に伊豆・多田村に帰着し、和歌一首で結ぶ。文中に挿入した和歌は31首。

古暦便覧 (べんらん) 吉田光由(久庵) 編・序。慶安元年(1650) 5月、久庵序。万治2年(1659) 4月刊記。延宝元年(1673) 頃後印。「京都」西村又左衛門板。底本は末尾10年分に元号等を省略するため、延宝元年頃の刊行と思われる。▽『塵劫記』の作者として知られる吉田光由が編纂した、天正4年(1576)から延宝元年(1673)までの暦。序文によれば、本書以前に成立していた古暦を訂正したもので、編纂は戊午年(元和4年・1688)に始まり甲子年(寛永元年・1624)に終えたとする。本文の体裁は、和暦(上に干支、下に二十八宿)を見出し風に大字で記し、12か月それぞれ、月の大小、朔(1日)の干支、二十八宿、二十四節気や減没の日付と時刻などを付記する。次に、奇数月の六十四卦と、偶数月の六十四卦を記す。さらに、最下段に納音を示した後、左側を大きく縦2列に分けて、各月の月の大小、十干、二十八宿、主要日の干支や二十四節気を記す。

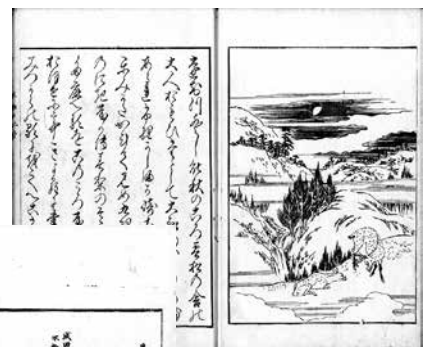
〈万民家宝〉増補暦之抄大成 (ばんみんかほうぞうほ) 佐藤和泉校。享保元年(1716) 8月初刊(「大阪」秋田屋徳右衛門板)。江戸後期再刊。「大阪」伊予屋善兵衛ほか板。▽陰陽道を始め日本の信仰・習俗の中で生まれた暦日の神々や暦日・方位の吉凶など暦に関する用語を網羅的に集めて解説した書。上巻に48項(全80項)を収録。上巻は、歳徳神・八将神などその年の吉方・凶方を司る神々を始め、鬼門、金神、天一神、土公(土公神)、土府神や、月建、土用の間日(土を動かす作業など土用中の禁忌が許される例外日)、十二直等の暦用語や暦注、また、各種吉凶日などの解説が中心。下巻も、雑節・吉凶日・暦注など数多く解説するほか、末尾第41項以下に、暦に関する種々の問答を載せる。なお、上下巻とも首題に続けて「土御門家校考」と記すのは、作者が中世以来、暦の權威であった同家に仕えていたことを示す。

【78巻・次頁へつづく】

増補暦之抄大成(78巻)



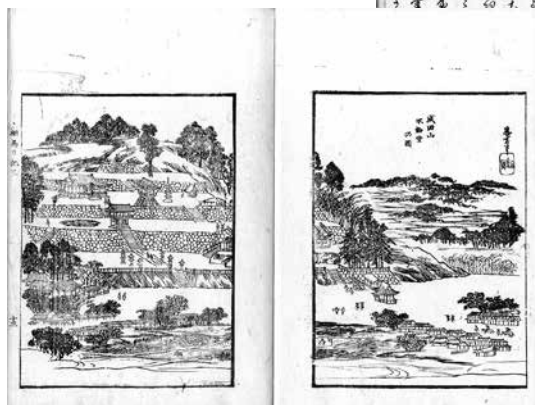
やをかの日記(77巻)



鹿島日記(77巻)



古暦便覧(78巻)



相馬日記(77巻)

*各巻
分売可

78巻【暦】

真暦考（きんれ） 本居宣長（鈴屋大人）作。天明2年（1782）9月作。寛政11年（1799）7月刊。「京都」錢屋利兵衛ほか板。▽上古の暦と近世の暦の相違などを考察したうえで、中国の暦法を採用することで、かえって種々の支障が生じている現状を指摘し、日本の自然・風土に調和した日本古来の「真暦」に立ち戻るべきことを述べた書。古代における真暦こそが天地自然に即したもので、中国の暦法にならった当代の暦が日本に馴染まない理由を述べ、日本の暦のあるべき姿を示す。江戸後期後印の別本も抄録。

和漢暦原考（わかんれき） 石井磯岳（光致・磯岳亭）作。釈希異（律師包山）校。文政12年（1829）6月自序。文政13年8月刊。「江戸」須原屋茂兵衛（千鐘房）板。▽序文によれば「和漢暦原及ビ干支ノ来由ヲ諸子ノ説ニ較ベテ」まとめた草稿を、包山の校訂を経て上梓したもので、主に日本の暦の起源や歴史、また、干支の意味について論じる。まず『真暦考』を典拠に神皇から人皇にかけての古代の暦について述べ、本邦で初めて外来の暦を採用した推古天皇の時代以降の暦の変遷を略記する。次に本朝における7度の改暦を一覧にし、さらに、中国では東周の平王以降、本朝では推古朝以降に年月に干支を配合するようになった経緯を述べる。また多くの文献に基づき中国の暦変遷を詳述し、『史記』律書などの諸文献を引いて解説する。中国の二十四方位図の矛盾を指摘し、巻末に自ら考案した方位図を掲げる。

暦日註釈絵抄（れきじつしやくえいしやう） 山田野亭（山田案山子・好華堂・好花堂・得翁齋）作。川部天受（玉園）画。弘化4年（1821）1月刊。「大阪」大文字屋仙蔵ほか板。見返しに「明石堂」とあり。▽『大雑書』等に見える暦占関係の記事を集めて種々の図解を施したもの。口絵に「須弥山図」を掲げ、本文欄に「年徳神の事」「金神の事」「犯土（土いじり）を一切慎む日」などを収録。また、頭書欄に「天象略註（日・月・日蝕・月蝕・三日月・望月、月の和名、月の暈、星、虹蜺、雨、雪、雷）」などを掲げる。原本表紙は色刷。

第79巻【氣象】

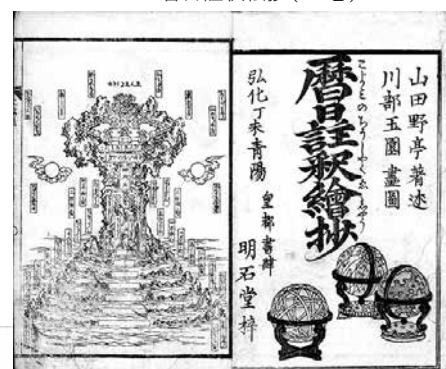
（収録5点）

秉燭或問珍（へいしやく） 鷹見爽鳩（児嶋正長・児嶋不求・爽鳩子）作。宝永7年（1710）1月、三浦義泰（養正齋）序。宝永7年1月自序・刊。文政2年（1819）7月補刻。「大阪」秋田屋太右衛門ほか板。▽天地間の自然現象、また、不可視的現象・怪異現象から呪術・迷信に至る諸現象の原因等について問答体で記述した書。種々の文献や故事に基づいて考証し、妄説・迷信の類を極力排除する姿勢を貫く。6巻2冊に、雷・風・月・虹・光物・谷音・地震・潮・竜宮・狐火・高山煙立つ・鬼神・轆轤首・夢・仙人・狐・天狗・瘡・釜鳴・産婦鬼などの事・説を集録する。江戸後期後印本（「大阪」秋田屋太右衛門板）の上巻も抄録した。

「渾天」民用晴雨便覧（こんてん） 中西敬房（華文軒・如環・東嶺・宇兵衛）作・序。明和4年（1767）4月自序。明和4年7月刊。「大阪」松村九兵衛（敦賀屋・文海堂）板。▽『「渾天」日用晴雨便覧』を「天時不測ノ変災」を逃れないと批判した著者が、地盤（地勢）の十分な把握や、雲色・運氣の定時（八節・朔日・四仲等）観測を基本に、占驗（天気占い）も参照する「観天望氣ノ法」に基づいて記した、日本最初の氣象関連書。占卜の要素を多分に含むため氣象学とは一線を画すが、晴雨計や寒暖計による本格的な氣象観測が幕府天文方で始まる約70年前に緻密な氣象観測を重視した点は先見的である。天体全般や、雲・雨・風などの図説と占法、暦占関連記事、虹蜺・日暈・月暈・地震・流星等の図説・占法、「占六甲風雨法」「占太陽法」「占太陰法」など各種占術・呪術の記事を載せる。

「天文早考」通機図解（てんもんそうこう） 明逸（明一・明月道人・義道・曇寧・解脱隱居）作・序。宝暦6年（1759）10月自序。明和3年（1766）3月刊記。明和4年3月校訂・刊。「大阪」高嶋秀芳蔵板。「大阪」菅田屋伊右衛門売出。▽雲氣（異様な雲や雲状の気）図20種40図（変体図付き）を掲げて、雲気の形状とその後の氣象予測について述べた書。伊予松山の浄土真宗円光寺七世住職で楠木正成の末裔と自称する著者が、正成が「大賢之資」を以て「蓋世之勲」を建てたのは「其の能く機微に察し、変兆に観るの故」であったが、日頃愛読の「機微変兆之書」から抄録した内容に解説を施したものとす。「柳顔」（「甚ダヲソルベキノ氣」で、未申の刻より激しい雷鳴や地震・大雨の前兆であり十分用心すべき雲氣）などを載せる。

暦日註釈絵抄(78巻)



和漢暦原考(78巻)

真暦考(78巻)



通機図解(79巻)



秉燭或問珍(79巻)



民用晴雨便覧(79巻)

*各巻
分売可

風雨賦国字辯 (ふううふくこくじべん) 中西敬房 (華文軒・如環・東嶺・宇兵衛) 編・画。安永5年 (1796) 6月自序。安永6年1月刊。『大阪』松村九兵衛 (敦賀屋・文海堂) 板。▽中国「太古ノ遺書」である『風雨賦』 (明・王鳴鶴編、万曆27年 (1599) の邦訳書。『風雨賦』は「天時ノ陰晴及ビ風雷・霜雪ヲ占候スルノ秘訣」を記した書だが、難解な漢文であるため、この本文に仮名書きの詳しい注釈を加えて本書の下巻 (坤巻) とし、上巻「図翼」にその図解55図を新たに増補したもの。作者は既に『民用晴雨便覧』を明和4年 (1767) に刊行していたが、同書に未載の「雲気変形ノ図翼」を本書で補ったもので、この両書を併せ読むことを奨める。下巻は、要語の解釈と各句の大意を示すほか、適宜、関連諸説も引いて丁寧に説明する。

〔御免〕五穀人豊記 (ごめんごくじんほうき) 嶋津大定 (土御門殿門人・東奥桃桑臥仙) 作。嘉永4年 (1851) 11月刊。〔奥州福島〕臥竜堂丈助板 (巻末に「最上米沢・会津卸取次所」と記)。嘉永5年11月刊。〔江戸〕玉光堂善助板。▽嘉永5年 (同4年刊)・同6年 (同5年刊) の月別天候予測。前者、嘉永5年の場合、まず「年中総考」として一年全体の天候について、当年の納音から農作物の生育予測にも言及する。続いて、各月の干支と月内の風雨など天候予測と農耕に関する諸注意、天変地異の可能性、また、暦注や選日に伴う禁忌等を記す。さらに、巻頭に二十四節気を6分した六気別の寒暑・風雨・疾病等の傾向を述べ、また巻末に「生年生日によりて禍を遁れ、悪しきを去り、善となる心がけの事」「疫病即効の薬方」の記事を付す。なお、嘉永6年の予測も同様だが、表記方法に多少の違いがあり、二十四節気を白抜き文字にして目立たせるなどの工夫も見られる。

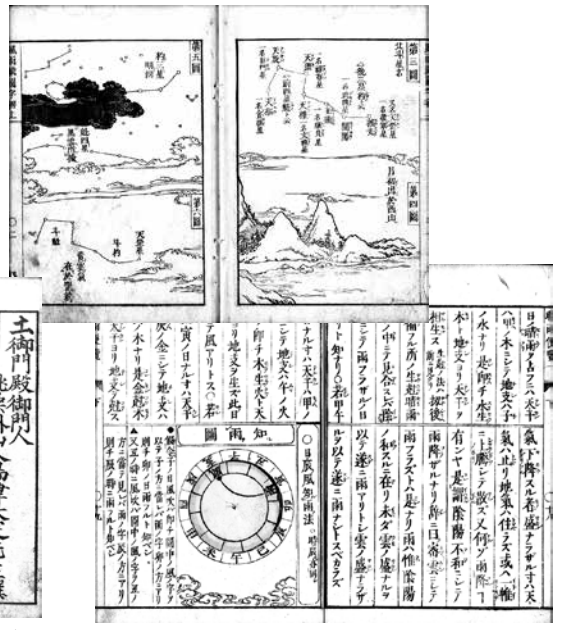
第80巻 【地方・経済】 (収録3点)

〔算法入〕勸農固本録 (くわのうこくほんろく) 万尾時春 (万尾六兵衛) 作・序。享保10年 (1725) 3月自序。享保10年4月、平維章 (篠崎東海・子文・金吾) 序。享保10年9月、謙亭 (小宮山昌世・李之進) 序。享保10年12月刊。〔京都〕小川彦九郎板。▽農村行政に携わる者が農民生活や農耕の実情を把握して適切な農村統治を行うための知識・心得を詳述した書。書名は『書経』の「民は惟邦の本、本固ければ邦寧し」に由来するが、これは著者の基本理念でもある。「役人平日心掛之事」では、役人は朝早く出勤して遅く退くべきこと、鄉村統治にはその土地の古例や国風を配慮すべきこと、万事筋目正しく公正かつ公平無私であるべきこと、算法に習熟すべきこと、役人は百姓からの進物等一切拒否すべきことなどを論ず。

算法地方指南 (さんぽうちほうしんぱん) 村田恒光 (佐十郎・如訥・栢堂) 編。長谷川寛 (善左衛門) 校。天保6年 (1835) 11月官許。天保7年2月、秋田義一 (十七郎) 序。天保7年2月刊。〔江戸〕西宮弥兵衛ほか板。▽地方役人や村役人向けに書かれた農村支配の手引書である「地方書」のうち、特に、検地・年貢・普請等に関する諸計算に比重を置いた算法地方書の一つ。まず地方全般の基礎知識として、日本における国郡里制や農村支配の歴史、地方で用いる度量衡や銭貨の単位、年貢収納高、等級別一反当たり標準収穫量、反取・厘付取 (免) の年貢計算法、田畑の本租である物成 (取箇・成箇)、毎年の作柄で年貢高を決める見取、付加税としての本石斗立・出目米・延米・込米・口米・口米・雑税としての浮役・小物成、検見法全般、稲の主要品種30種とその特色、川除その他普請のあらまし (図解多数)、地方勘定帳における諸計算や、種々の形状をした田畑の面積計算や堤防の体積計算などを載せる。

地方調法記 (ちほうてうはふき) 鳥有逸人作・序。市野節義校。明治3年 (1870) 5月、鳥有逸人序。明治3年5月刊。〔東京〕相模屋七兵衛 (青松軒) 板。▽著者の実務経験に基づき農村経営上の基本事項をまとめた書。上巻では、まず優良な農地の条件や、土地の善悪を見極める重要性、また、検見 (毛見) と見分、坪刈、地方役人の心構えや百姓に対する指導や理解、郷村の見極め方、蒔田の諸事情など実務上の秘訣や心得を説く。以下同様に、検地・見分の心得、庄屋・百姓の対立と入札による庄屋選任、石盛の起源、田地の甲乙、農業の地域性、田畑の日照を確保するための樹木伐採、田地での麦作、水掛麦 (水耕栽培による麦作)、「田分け」の意味、寺社に田地を売るべきでない理由、公事訴訟の心得、川除普請の要点までを述べる。また下巻では、苗代の見積もり、農業の年間諸経費、徳田・損田と田畑の甲乙、諸国独自の年貢定法に対する注意や年貢割付帳等の整備など、後顧の憂いを避ける秘訣などを記す。書袋も収録。

風雨賦国字辯解 (79 巻)

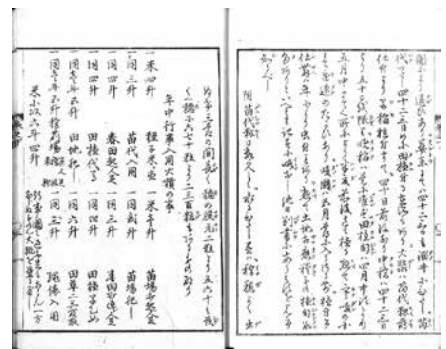


民用晴雨便覧 (79 巻)

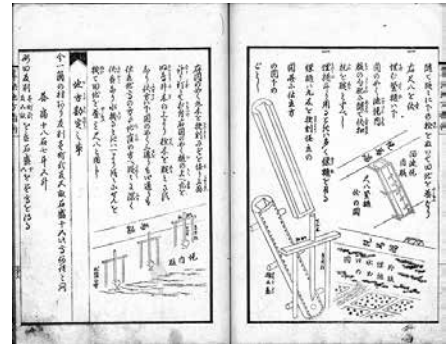
勸農固本録 (80 巻)



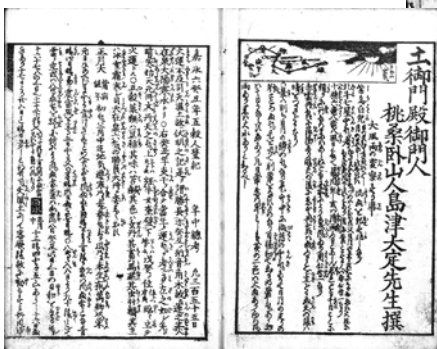
地方調法記 (80 巻)



算法地方指南 (80 巻)



五穀人豊記 (79 巻)



江戸時代の魅力 さらに広がる

『江戸時代庶民文庫』第2期
刊行にあたって

今日「江戸時代」への関心、注視の度合いは高まるばかりです。江戸時代には、庶民教育の普及による識字率の向上、また、印刷技術の進歩や出版活動の隆盛に伴う書籍の流通、そしてそれらを可能にした全国的な交通網の整備、流通の拡大、社会経済の発展などにより、庶民階級が台頭し、それまでの公家・僧侶・武家文化と異なる独自の文化が展開しました。庶民の「俗」文化が上流社会の「雅」文化を取りこみながらダイナミックに発展していった江戸時代に、現代に続く日本の伝統文化の大半が形成されたと言えるでしょう。

『江戸時代庶民文庫』は、当代庶民の生きる知恵と技術、生活の実相を知る基本的かつ貴重な史料を影印集録する叢書として全60巻・別巻一が刊行され(2012～16)幸いにも江湖に好評裡に迎えられました。しかし、見るべき残すべき価値があり「発見」が待たれている分野や資料は汲み尽せないほどあります。ここに第二期(第61～100巻)を継続発刊し、本文庫が江戸時代史料の一層充実した宝庫として広く活用されることを願っています。

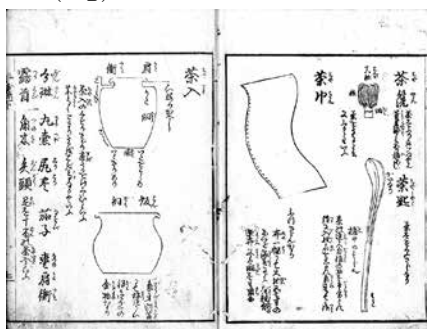
平成三〇年六月

大空社出版

(100巻)



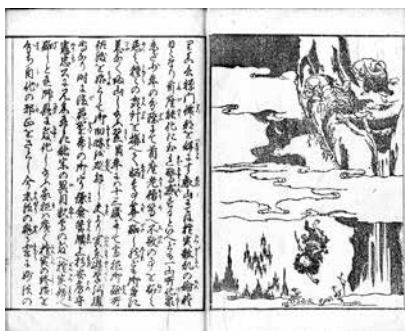
(87巻)



(81巻)



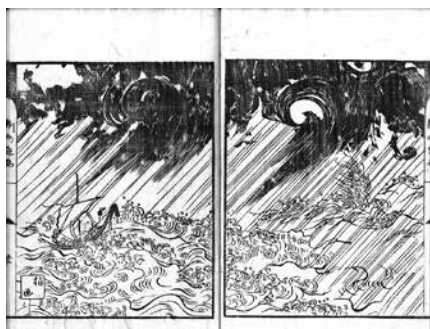
(99巻)



(94巻)



(82巻)



(98巻)



(97巻)



(89巻)



(83巻)

*各巻
分売可

ご希望の巻を選んでお求めになれます!

*この収録資料一覧は現在予定されている書目です。新発見史料に差替えなど、変更する場合がありますのでご了承ください。

第8回 (2021年11月予定)	第7回 (2021年5月予定)	第6回 (2020年11月予定)	第5回 (2020年5月予定)
100巻【画譜】(収録3点) 半山画譜(全3巻・別本1冊)(松川半山画)、「花鳥山水」北樹画譜(葛飾北樹画。漆園重義序)、光信画譜「絵本集草」(長谷川光信・岡山繁信画) 99巻【本草・植物】(収録2点) 「草形出生」草花絵全書(伊藤伊兵衛四世作・画)、本草図譜(文政板)(岩崎常正作・序。岡田清福画) 98巻【神道】(収録6点) 「小社探賈詞評」神路の手向草・小社探三段評(今西洪克作・序)、「絵入」神路の手引艸(増穂残口作・序)、神道道しるべ(初編)(野々口隆正作)、神民須知(天明5年)(小佐野某作)、「幸神」阡陌の立石(玉田永教作。佳信画) ほか 97巻【キリスト教(排斥)】(収録5点) 杞憂小言(淮水南溪作)、斥邪漫筆・斥邪二筆(深慨隠士作・序・校。憂国野叟校)、「新撰」斥邪蘇(阿満得聞作)、破吉利支丹「破鬼理死端」(鈴木正三作) ほか 96巻【測量】(収録4点) 見立算規矩分等集(万尾時春作・序)、量地円起方成後編(廻分見)(剣持章行作。門人校訂)、量地図説(甲斐駒蔵編。長谷川善左衛門関。小野友五郎校。安倍勘司・鈴木金六郎序。富田彦蔵跋)、「六分円器」量地手引草(村田如訥編) ほか	95巻【医学(養生)】(収録2点) 「按腹鍼術」按摩手引(藤林良伯作)、こけぬ杖「古計努津兄・(長生要術)姑計怒通依(故家努豆恵)」(山口重匡作・序。橘南谿校) 94巻【伝記】(収録10点) 孝連人物考(和合編)(菅原友山作・序)、越後孝婦伝(林愿作。篠本為直書。相田政雋跋)、「菅神廟碑銘解」(田沼謙注・序。服部政世跋。小山梧桐・福田敬業題字。福田半香画)、「義士夜討高名咄(承天則地作)」、「江州日野」孝子善治行状(門坂善太郎作・序。脇坂義堂跋)、「朝師」紀季録「加賀阿闍梨日朝上人紀年録」(一乗舎黙翁作・序)、和漢廿四孝(柳下亭種員作。歌川広重2世画。房種画) ほか 93巻【書道】(収録2点) 東江先生書話(沢田東江作述。橋圭橋編・自序。井純卿金裁・蚊田御風序。田世璉・関脩齡跋)、臨池求源鈔(鈴木正真作・書。独清軒序) 92巻【語源辞書】(収録1点) 日本釈名(貝原篤信編・序。松下見林序) 91巻【商業(名鑑他)】(収録2点) 町人考見録(三井高房作)、諸国道中商人鑑	90巻【商業(道德)】(収録2点) 商人生業鑑(弘化板)(岩垣光定作・序・跋。守岡光信画)、家業道德論(河田正矩作) 89巻【医学(救急・看護他)】(収録5点) 看病手引歌(靈応作)、急救医法「賜民藥方・救民藥方録」(阿部正興作・序・跋)、「(長生法附録)救急法、古方便覧(六角重任作・書。吉益東洞校・序) ほか 88巻【天文】(収録1点) 「運氣曆術」天文図解 87巻【茶道】(収録4点) このめの説(古能免乃説・木芽説)(前田夏蔭作・跋)、茶道早合点(珍阿作・序。萩簗叟跋)、煎茶早指南「自辨茶略」(柳下亭風翠作) ほか 86巻【学問】(収録3点) 「一覽博識」学問自在(如蘆山人作・序)、文教温故(山崎美成作・序) ほか	85巻【語録(漢学)】(収録4点) 言志四録(4冊)(佐藤一斎作。源綱條校・跋) 84巻【祭祀(葬祭)】(収録7点) 上等葬祭図式(常世長胤作・蔵板。秋山三郎跋)、庶人喪儀式(古川躬行作・序)、葬儀式心得大意(新田邦光作。水谷立五郎・南場宗利編)、葬事略記(角田忠行作。師岡正胤跋)、葬儀略(増訂併触機飯服(服飯考)(古川躬行作・序)、日本養子説・非火葬論(甘雨亭叢書・別集)(板倉勝明編) ほか 83巻【仏教(般若心経)】(収録6点) 般若心経絵入講釈(近沢幸山注・序。野口清岱書。一光斎芳盛画)、般若心経絵抄(玉川雲起作)、般若心経和解(知真庵序)、般若心経鈔図会(一休和尚抄)般若心経抄図会・心経抄図会(一休宗純作。辻本基定編。寛嶺画) ほか 82巻【災異(地震・救荒)】(収録7点) 饑年要録(江戸板)(福沢憲治作・序。笹古金作編)、救荒孫之杖(雲洞作)、凶荒図録(小田切春江編。木村金秋画。勝間田稔題字。野村賀真序)、社倉勸諭并附言(足代弘訓作。沢屋重右衛門編・付言)、地震考(小島濤山作。小島東隴庵編) など 81巻【旅行・交通】(収録2点) 「改正新版」増補日本汐路之記「(東海北海西南海)増補日本汐路之記」(高田清兵衛編・序)、「(大日本)海陸道中行程図鑑」(天保7)

江戸時代庶民文庫

〈第2期〉全40巻(第61～100巻+別巻)

解題 小泉吉永(こいずみ よしなが)
(往来物研究家)

[体裁] A5判・上製・クロス装

〈第2期〉第4回配本

全5巻(第76～80巻)

* 2019年10月刊

巻【ジャンル】(収録資料点数)	頁	ISBN	本体価格(税別)
76巻【建築】(3点)	400頁	978-4-86688-076-1	18,500円
77巻【紀行】(4点)	390頁	978-4-86688-077-8	18,500円
78巻【暦】(5点)	440頁	978-4-86688-078-5	19,000円
79巻【気象】(5点)	610頁	978-4-86688-079-2	24,500円
80巻【地方・経済】(3点)	360頁	978-4-86688-080-8	16,000円
全5巻揃(76～80巻) 総約2200頁 978-4-86688-104-1 96,500円			

*次回・第5回配本(第81～85巻) 2020年5月刊予定

*各巻
分売可

本体価格(税別)

第1回配本 全5巻揃(61～65巻)総約1810頁 978-4-86688-101-0 78,000円
*2018年6月刊

61巻【園芸・飼育】(4点)	320頁	978-4-86688-061-7	14,500円
62巻【科学(化学・物理・理学)】(4点)	450頁	978-4-86688-062-4	19,500円
63巻【食養生】(2点)	380頁	978-4-86688-063-1	16,200円
64巻【料理・近代家政】(4点)	350頁	978-4-86688-064-8	14,500円
65巻【絵画(入門書)】(1点)	310頁	978-4-86688-065-5	13,300円

第2回配本 全5巻揃(66～70巻)総約2130頁 978-4-86688-102-7 88,000円
*2018年11月刊

66巻【笑話・小咄】(4点)	350頁	978-4-86688-066-2	14,800円
67巻【物産】(2点)	590頁	978-4-86688-067-9	23,400円
68巻【歌謡】(7点)	320頁	978-4-86688-068-6	14,000円
69巻【教育・学問】(4点)	390頁	978-4-86688-069-3	16,200円
70巻【人物辞典】(1点)	480頁	978-4-86688-070-9	19,600円

第3回配本 全5巻揃(71～75巻)総約2180頁 978-4-86688-103-4 96,000円
*2019年4月刊

71巻【戯文】(16点)	520頁	978-4-86688-071-6	22,500円
72巻【故事・俗説】(2点)	430頁	978-4-86688-072-3	19,000円
73巻【仏教】(4点)	470頁	978-4-86688-073-0	20,000円
74巻【農業】(5点)	420頁	978-4-86688-074-7	18,500円
75巻【絵本】(2点)	340頁	978-4-86688-075-4	16,000円

〈第2期〉既刊

★既刊の詳細案内進呈 下記へご請求を

江戸時代の庶民生活の諸相を
貴重な版本(影印)で見せる一大叢書
収録分野・領域ジャンルが
さらに多彩な広がりを見せる

【第2期収録のジャンルより】(予定を含む)

園芸・飼育 科学(化学・物理・理学) 食養生 料理・近代家政 絵画(入門書) 笑話・小咄 物産 歌謡 教育・学問 人物辞典 戯文 故事・俗説 仏教 農業 絵本 建築 紀行 暦 気象 地方・経済 旅行・交通 災異地震・救荒 仏教(般若心経) 祭祀(葬祭) 語録(漢学) 学問 茶道 天文 医学(救急・看護他) 商業(道德) 商業(名鑑他) 語源辞書 書道 伝記 医学(養生) 測量 キリス ト教(排斥) 神道 本草・植物 画譜:

* 第2期には約180点の資料を収録、
総16,000ページ以上の予定です。

●全8回配本●2022年1月完結予定

ヴィジュアル資料
多数収載!

江戸時代の
生活分野に関する
あらゆる研究に
有益この上なし!

◆稀覯・新発見資料を多載

◇挿画・図版が豊富な史料を多載

◆鮮明印刷の版本「影印版」

【主な収録分野】教育・道德・民衆・女性・子ども・老人・生活・風習・社会・産業・職人・風俗・芸能・医学・科学・経済・交通・宗教・絵画・出版…の歴史、美術・イラスト・デザインの素材…